

JOSEI KANAGAWA

浄青神奈川



大本山光明寺法主宮林昭彦台下御染筆



- 2 会長挨拶
- 3 平成18年度事業報告
- 4,5 各組紹介
- 6,7 法然塾
- 8,9 他宗団見学・海外仏教国支援事業報告
行事報告
- 10 卒業、新入会員紹介
- 11 豆知識
- 12 平成19年度事業計画

第18期テーマ

選択(せんたく)の責務
～選択(せんちやく)を担って～
第16代会長 三荒 弘道

選択(せんたく)の責務

～選択(せんちやく)を担って～

第18期浄土宗神奈川教区青年会

第16代会長 三荒 弘道



聖号十念

第十八期浄土宗神奈川教区青年会 第十六代会長に就任させて頂き、早一年の月日が経ちました。昨年度は任期一年目ということもあり、不慣れな点も多く、ご心配をお掛けする場面も多々ございましたが、現役会員は元より、OB・本山・教区・各種団体諸役の皆様等、多くのご支援ご協力を頂き、事業遂行に邁進できましたこと心より御礼申し上げます。本年度は昨年度の経験をかす中で、法然上人のみ教えを礎に、神浄青の更なる飛躍を見据え事業展開をはかってまいります。自行・化他・和合の精神を体に刻み、諸先輩の皆様方が大切に繋いでこられた伝統ある神浄青を、全身全霊を込め、しっかりと繋いでまいります。二年目に入る今年度もどうぞ宜しくお願い申し上げます。

二十一世紀に入り七年目を迎えた今、個人の価値観が多様化し、社会のグローバル化が進行する一方で、公への責任観や道徳意識は崩壊の瀬戸際にあり、民族間・宗教間の対立は増すばかりです。その他、経済格差に伴う不公平感の拡大、少子高齢化がもたらす過疎化など、課題は山積しています。政治・経済・教育・福祉・環境等、あらゆる分野で混迷が深まっているといっても過言ではありません。そうした時代に生きる私たちは、そこに至る経緯は異なるろうとも、結果として浄土宗僧侶を選択(せんたく)しました。そして、檀信徒はもちろん多くの方々が、私たち僧侶の一挙手一投足を通して、あるいは、各自の寺院活動を通して、浄土宗を見て、広くは仏教や宗教を見えています。私たち青年僧侶は、そうした現実を直視し、深い内省を胸にした上で、あるべき原点を見つめ直す必要があるのではないのでしょうか。

今から八百年前、大きな混乱の時代を生きた法然上人は、阿弥陀さまに「選択(せんちやく)

やく)「されたお念仏の教えを人々に伝えるべく、身を賭して邁進されました。そして、数え切れないほど多くの方々が、お念仏の教えを守ってこられました。そうした方々の努力があったからこそ、今の私たちがいることはまぎれもない事実なのです。阿弥陀さまの「選択(せんちやく)」の教えを担うべき浄土宗僧侶を私たちは選択(せんたく)したので。私たち青年僧侶の責務は何か。お念仏の相續を根底に社会教化の実践に向けて努力し続けなくてはならないと確信します。

第十八期浄土宗神奈川教区青年会は、活動テーマ「選択(せんたく)の責務」(選択(せんちやく)を担って)を掲げ、事業展開しております。

昨年度は、「法然塾」を立ち上げ(浄土宗僧侶として、宗祖法然上人のみ教えを拡げるために、多様化する現代社会において、問題提起と発信するフィールドを明確にし、浄土宗僧侶として念仏の教えを、如何に発信し実践していくのかを、講師の基調講演や会員同士のディスカッションを通して研鑽し、自身のモチベーションを上げていく研修会)年三回開催してまいりました。特に靖国神社参拝見学、京都宗務庁・宗議会見学、京浜組林田師による法然上人史跡見学は、参加頂いた会員一人一人のスキルアップに繋がる事業であったと確信しております。また、全国浄土宗青年会第二回全国大会では、大会成功に向けて井上実行委員長の下、神浄青一丸となって積極的な大会運営に携わらせて頂きました。お陰様で多方面より大会内容のお褒めの言葉も頂戴し、大会成功の達成感と会員同士の絆が更に深まりを得た事が、何よりの収穫でありました。大会開催にあたり多くの皆様より頂いたご厚情と激励にあらためて感謝申し上げます。

今年度は自行として昨年度に引き続き「法

然塾」一年四回開催し、社会の変化するスピードを意識し、現場に足を運ぶ中で、目で見、耳で聞いて、体で感じる研修を開催し、法然上人のみ教えを拡げていく目的を明確にする中で、浄土宗青年僧として更なる研鑽をしてまいります。また、神浄青「HOW TO BOOK」を作成し、会員が活動する中で役に立つ用語や宗行政のルール等をマニュアル化し、会員育成の一助としてまいります。会員がいつでもどこでも参考にできるポケットサイズの要覧を編纂する中で、会員の意識向上へ繋がるものと確信します。化他としての事業は、主に一般檀信徒を対象とした大別時念仏会の開催と円滑なる救援活動を展開するためのシステムづくり等に取り組んでまいります。和合としての事業は、教区長杯争奪ソフボール大会や家族親睦会等、会員同士やOBとの交流を積極的に行ってまいります。その他広報誌づくりや、昨年遂行できなかった神浄青ホームページの開設により対内外へ積極的に広報活動を展開してまいります。

混沌とした時代だからこそ、私たち浄土宗僧侶が念仏弘通の心をもって更に社会教化を実践して行かなくてはならないと確信します。せっかく入会した神浄青です。四十三才までしかできない青年会です。「浄土宗青年僧としての可能性を試せる、一生の友と出逢える、社会を豊かに出来る」こんな夢を持ちながら、共に熱き想いを持って活動していきましょう。会員の皆様と目的を共有し、夢を形に、形を現実にしていきたいと思っております。皆さんのお力添えを賜り、更なる浄土宗神奈川教区青年会の発展の一助を担っていきたくと考えます。

どうぞ二年目を迎えた第十八期浄土宗神奈川教区青年会に大いなるご支援、ご協力を賜りますことを伏してお願ひ申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。

平成18年度 浄土宗神奈川教区青年会 事業報告

月	日	内 容	場 所
4月	4日(火)	関プロ浄青御忌詠唱奉納大会 参加者7名	大本山増上寺
	5日(水)	関東三大本山別時念仏会(東京教区) 参加者9名	大本山増上寺
	21日(金)	第1回理事会	大本山光明寺
	27日(木)	定期総会 神浄青入会式・卒業式 参加者66名	大本山光明寺
5月	29日(月)	第2回理事会 新旧歓送迎会 参加者47名	大本山光明寺・鶴ヶ岡会館
6月	9日(金)	機関紙「浄青神奈川」第33号発行 第1回法然塾 参加者47名	大本山光明寺
	22日(木)~23日(金)	第34回関プロ浄青総会並びに研修会 参加者40名	甲府湯村常盤ホテル(担当 山梨教区)
	23日(金)~28日(水)	浄土宗ハワイ教区授戒会並びに宗祖法然上人800年大遠忌記念法要 参加者7名	ハワイ浄土宗別院
7月	4日(火)	大本山光明寺開山忌前清掃奉仕・第3回理事会 参加者57名	大本山光明寺
	28日(金)~30日(日)	第59回夏期僧堂手伝い(関東地方教化センター・神奈川教区)延べ33名	大本山光明寺
	30日(日)	全国大雨災害救援托鉢 参加者6名	高德院
8月	30日(水)	浄土宗青年会 第2回全国大会(関東ブロック) 参加者81名	ヨコハマグランドインターコンチネンタルホテル
9月	12日(火)	第4回理事会	大本山光明寺
	28日(木)	神奈川教区長杯争奪ソフトボール大会 参加者72名	酒匂川スポーツ広場(担当 小田原組)
10月	10日(火)	大本山光明寺十夜前清掃奉仕 第5回理事会 参加者51名	大本山光明寺
	14日(土)	十夜托鉢 十夜法要手伝い 参加者11名	大本山光明寺
11月	8日(水)	関プロ浄青スポーツ交流大会(埼玉教区) 参加者25名	荒川総合運動公園
	17日(金)	第2回法然塾 参加者30名 対内紙「NICE BOSE通信」第11号発行	靖国神社・千鳥ヶ淵戦没者墓苑
12月	12日(火)	第6回理事会 忘年会(参加者47名)	大船 好養
1月	24日(水)	御忌別時會 第7回理事会	大本山光明寺
2月	7日(水)~8日(木)	第32回全国浄土宗青年会総合研修会 参加者8名	広島(妙慶院・平和記念公園資料館東館)
3月	7日(水)~8日(木)	第3回法然塾・他宗団見学 参加者24名	京都(宗務庁・知恩院・禅林寺等)
	9日(金)	全浄大別時會(関プロ担当) 参加者15名	大本山増上寺
	30日(金)	第8回理事会	大本山光明寺

第二回全国大会報告

昨年の八月三十日、ヨコハマグランドインターコンチネンタルホテルを会場と致しまして、関東ブロック主催、神奈川教区担当による「浄土宗青年会 第二回全国大会」が開催されました。

研修テーマを「同入和合海」共に育み 共に生きる」と題しまして、義家弘氏、小山内美江子氏、林田康順師にご講演頂いた今大会は、残暑の厳しい中ではありましたが、全国から四八〇名を超える青年僧侶にご参加を頂き、皆さんのお話を熱心に聞き入る姿がとても印象的でした。

研修会終了後の懇親会におきましても、笑顔、笑い声が絶えることなく、教区を越えて親睦を深めることが出来たのではないかと思います。



神淨青各組紹介

京浜組 会長 林田 康順



聖名十念 水谷知靖前会長からバトンを受け、早一年が過ぎました。今年度も、京浜浄青の体制は変わらず、会長林田、加藤光成副会長、森本有史事務局長、古屋道正会計、大熊隆史書記以下、総勢十名の陣容です。

さて、昨年の本紙面でも述べたように、京浜浄青今期最大の主眼は、来る平成二十年三月五日から七日までの三日間、法然上人八百八十年大遠忌記念・結縁五重相伝を開筵することです。昨年度の事業も、五重相伝開筵に照準を合わせ、座学中心の研修を重ねてきました。具体的には、五重相伝の歴史的背景を学び、五重相伝の映像を見てイメージを掴み、そして、日程やスケジュール・配役の流れを立案したこと等です。とりわけ、去る二月十六日、浄土宗布教師会理事長・大本山光明寺布教師会長であられる柴田哲彦先生をお招きして開催した公開研修会には、神浄青会員をはじめ全国各地から多数の参加者を得たことは主催者としてこの上のない喜びでありました。またここにありがとうございます。

本年度は、昨年度の研修を基に、実際に道場を設けて法要を実践する習礼、あわせて、五重相伝中に用いる伝書の作成や法具の準備等を予定しています。もちろん、受者募集のポスターやパンフレットの作成、名簿や配布資料の作成、昼食や保険の手配等、実質的な運営に向けた諸手続きも必要となってくることでしよう。五重相伝の成満を目指し、本年度も会員一同精進して参る所存です。

港北組 会長 大谷 正元



いつもお世話になっております。港北組青年会会長 大谷正元です。

十八年度は、講師に塩澤智彦上人を迎え、計四回の法式研修会を行いました。熱心なご指導の下、大変貴重で為になる研修会により、会員各々のスキルアップに繋がったものと確信致しております。また、恒例の港南・港北家族親睦会はボーリング大会という事で当組が主催させていただきました。両組会員並びに、家族相互の理解、交流を更に深められたものと思っております。

今期十九年度は、前期に引き続き塩澤智彦上人を講師に迎え、計四回の法式研修会や、恒例の港南・港北家族親睦会を予定しております。

また、十一月二十六日(月)には、神奈川教区長杯ソフトボール大会を担当させていただきました。その昔までの港北という土地柄は田畑広がる環境の優れた場所、本大会開催会場探しには苦労する事はありませんでしたが、時代の流れと共に、各組同様に開催会場選定には難儀しております。しかしながら、最高の笑顔と設えて皆様方の参加を心よりお待ち申し上げます。

「明るく・正しく・和よく」各諸事業に取り組んで参ります。何卒、よろしくお願ひ申し上げます。

港南組 会長 長谷川 昌史



今年度は、来年度以降の活動も考慮して、若干、活動内容を変更しました。昨年度は年

四回行っておりました茶道研修会を年二回とし、法式研修会と詠唱研修会を一回ずつ開催しようと予定しております。法式では年末に鎌倉組との合同研修会を行っておりますが、その復習や補助的な教えを学ぶ研鑽を積んでいこうと思っております。詠唱につきましては組内で詠唱をされている寺院も少なく、少しでも触れ合いやすく、また数ある曲目の中でもお通夜で唱えられる即戦力的な曲・一曲を重点に研修していこうと考えております。

また数年前から行っている「勅修御伝」の輪説会はまだ途中ですので、昨年度に引き続きほぼ月一回で鎌倉組合同のもと開催していこうと思っております。

港南組では、転入ですが久しぶりに会員が一名増えました。まだ学生なので即戦力という訳ではありませんが、嬉しいニュースです。現会員にも学生や仕事をしている会員がおりますが、なるべく一丸とされるよう精進してまいりますので、今年度も引き続きよろしくお願ひいたします。

高座組 会長 平野 誠司



「継続」というテーマを掲げ始まった今期。昨年度高座組浄青では、新入会員歓迎会から始まり、毎月の法式・詠唱の勉強会のほか多くの事業を行いました。中でも教化事業の実践として二月に「帰敬会」を開催し、七十三名の組内檀信徒のご参加をいただきました。当日を迎えるまでに何度も法式勉強会にて塩澤智彦上人のご指導を頂き、会員がそれぞれに役割を持ち、「緊張感」を合言葉に臨みました。帰敬会では、受者が一人ずつ名前を呼ばれ本堂へ入る際、そのお顔には私たちと同じ緊張感が漂っていました。一人ひとりにお袈裟もお渡しし、受者の方々にも私たちの熱意が伝わった感慨深い素晴らしい事業となりました。

また、昨年九月に平野・香川(陽)両名で群馬浄青主催の御巣鷹山慰霊登山に参加し、二十一年前五百二十名もの尊い命が失われた日航機墜落現場にて、改めて命の尊さや自らの目で見ることの大切さを痛感してまいりましたゆえ、今年度は高座浄青の事業として慰霊法要に参加したいと思っております。そして、先延ばしとなっている中郡浄青との親睦事業及び礼拝会の実践と、法式並びに齊藤良典上人にご指導頂いている詠唱の勉強会や家族親睦会等の諸事業を展開してまいります。「自行・化他・和合」の三信条をもって、今期最後の一年をやりあるものにしていきたくと存じます。

神淨青各組紹介

鎌倉組 合本 吉田佳之



こんにちは、鎌倉組会長の蓮乗院 吉田佳之です。

今年度より、浄林寺 佐藤稜隆上人が入会致しまして総勢二十五名となりました。昨年度は、一泊二日で滋賀県に研修旅行に行つてまいりました。本山 蓮華寺、新知恩院等複数の寺院を参詣し、また佛師工房見学いたしました。普段手を合わせている仏像がどの様に作られ、修復されるか、また木の産地、場所、性質、仏像の安置される場所によりいろいろな苦労があるなどとても興味深いお話を頂戴しました。

今年度も、蓮勝寺 柴田哲彦先生にご指導を頂いている港南組との合同での勅修御伝の講読研修会（八月、十二月を除く毎月）を中心に同じく港南組との合同式法研修会、三浦組との歳末助け合い托鉢、忘年会を昨期に引き続き開催予定です。また九月の上旬に研修旅行を予定しています。勅修御伝は開始しまして八年が過ぎ、ようやく半ばまで進みました。講読研修会参加希望の方は遠慮なくお申し出ください。

副会長の成実洋史上人、事務局の岳瀬弘昌上人、会計の伊香輪一暎上人をはじめ皆様のご協力を頂戴して、無事に務めたいと考えておりますので、ご支援ご協力のほどなどよろしくお願い申し上げます。

三浦組 合本 進藤 法隆



こんにちは、VCMこと三浦組浄青会です。先ずは、平成十八年度の事業報告です。

懇親をはかる活動として、七月二十六日に伝統のパーベキュー並びにピング大会を三浦の「ビーチバム」にて行いました。毎年、家族親睦会を兼ねて行っています。奥様方やお子様方の交流も益々深まりました。また、十二月十八日に恒例の忘年会を横須賀の「鳥の巣」にて行いました。三浦らしく？盛り上がりました。

活性化をはかる活動として、五月二十六日杉浦定徳先生を講師に迎え、詠唱研修会を無量寺にて行いました。会員と一緒に唱えしました。なかなか詠唱に触れる機会がないので、とても勉強になりました。

十一月二十八、三十日は今年度の研修の下見と行うことで、韓国に行つてきました。先輩の村井・鈴木・杉浦各上人にも参加いただきました。短期間で限られた場所でしたが、多少の文化に触れることも出来、安心して今年度の研修を迎える自信もつきました。

次に、平成十九年度の事業計画です。懇親をはかる活動として、今年度も七月に家族親睦を兼ねたパーベキュー大会と十二月に忘年会を計画しています。

活性化をはかる活動として、六月に慶野匡文先生による布教研修会、十一月に吉水祥史先生による法式研修会を予定しています。

第二線で活躍の先生が三浦浄青の先輩にいろいろあるので、このような素晴らしい研修会を開催させていただけます。誠にありがたいことです。他組からのご参加も歓迎いたしますので、ご興味のある方はご連絡下さい。

今期の目玉とも言える海外研修は、五月二十二、二十五日に韓国へ行きます。隣国の仏教文化に触れ、知識の向上と親睦を深めたいと思っております。古都慶州や世界遺産の八万大蔵経版木がある海印寺を訪問する予定です。五月二十四日は陰暦の四月八日にあたり、韓国では盛大な花まつりが行われるそうですので、参加を予定しています。

中郡組 合本 相馬 正寛



聖名 今期早くも一年が経過し、中郡浄青では数々の事業を展開してまいりました。

講師に塩澤智彦上人をお迎えした法式教室は年度中間催数回をかぞえ、基本的なことから、知っているつもりで意外と理解していなかったことなど、さまざまに理解を深めさせていただいております。また、中郡浄青恒例の家族親睦会は七月に大磯ロングビーチ・プリンスホテルにおいて盛会のうちに開催され、十二月にハワイ開教区ホノルル別院において行われたハワイ開教区浄青との交流事業では、中村総監ご臨席のもと当会事務局長である鷺見宗信君が、行華十念を理念とする仏式結婚式についての発表を行ったのち、両浄青会員一同輪になって大数珠を練り別時念仏を修し、大変のり多い事業となりました。

今年度は浄青卒業会員が三名、新入会員0名と、人数的に少々寂しくはありますが、昨年度同様の各事業に加え、三万遍別時念仏会、仏式結婚式リーフレット作成、高座浄青との親睦会等、盛りだくさんの活動を予定しております。

また最後になりますが、昨年度末、中郡浄青の大先輩であります当会会長経験者の日比野隆道上人と小山諦生上人が相次いでご遷化され、会員一同悲しみに暮れたばかりであります。謹んで哀悼の意を表させていただきます。

小田原組 合本 松蔭 英宣



平成十九年度も引き続き小田原組青年会の会長を務めさせて頂きます。善光寺の松蔭英宣です。今年も小浄青一丸となって浄青活動を盛り上げてまいりたいと思います。

昨年度の小浄青の活動は、毎月第三日曜日の夜に皆様のご協力により勉強会を開催することが出来ました。岩崎会員による布教実演研修、成田会員による施餓鬼・十夜の役配毎の作法研修、北郡賢雄上人による十夜諷誦文回向・来迎和讃実演研修、小島伸方上人による日常修行・通夜・葬儀式の法式研修等、お互いの悩みを打ち明け、初心に戻り切磋琢磨したことにより、青年僧侶として少しは成長出来たと思います。

そして、対外的な小浄青活動として、十二月二十三日には恒例の歳末助け合い托鉢を小田原駅改札前に行い、十万円を超える浄財を社会福祉協議会へ寄付することが出来ました。

また、昨年度は神浄青教区長杯争奪ソフトボール大会担当組として、秋晴れの中、参加者八十余名の盛会をもって開催する事が出来ましたが、偏に会員皆様のご厚情の賜物と厚く御礼申し上げます。

今年度も昨年に引き続き毎月第三日曜日の夜に小島伸方上人をお迎えしての法式研修や石川会員による教学研修、大場会員による書道研修、恒例の歳末助け合い托鉢、家族親睦会等、盛り沢山の事業を予定しております。

浄青活動を通して、親睦を深め、青年僧侶としてお互いに成長できる様、どうぞご支援ご協力の程、宜しくお願ひ申し上げます。

第18期 “自行” 事業 法然塾



- 第1回 - 「浄土宗僧侶は如何にあるべきか」
- 第2回 - 「靖国神社・千鳥ヶ淵戦没者墓苑見学」
- 第3回 - 「宗務庁見学・法然上人御遺跡めぐり
— 法然上人の息吹を求めて —」

第一回

第十八期では「選択（せんたく）の責務」選択（せんちやく）を担って」を活動のテーマに、自らの研鑽《自行》事業といたしまして、「法然塾」を展開してまいります。

その事業の第一回目は、平成十八年六月九日に大本山光明寺を会場に、神奈川教区京浜組慶岸寺 林田康順師を講師に迎え第一部「浄土宗僧侶の使命―「選択」を担って」、第二部「テーブルディスカッションが行われました。

当日は、浄土宗の宗義を中心に多様化が進む現代社会の中で、「如何にして私たち青年僧侶が、お念仏の教えを時期相応におし進めていく事が出来るのか。」という内容で講演が展開され、後のテーブルディスカッションでは参加した各会員より意見交換が交わされるなど、充実した自行の研鑽研修のスタートとなりました。

第二回

第二回法然塾は、会員三十名の参加のもと、靖国神社と千鳥ヶ淵戦没者墓苑への参拝が行われました。当日は大本山増上寺に集合、三荒会長の導師により法要を勤めたあと、貸切バスにて千鳥ヶ淵戦没者墓苑へと向かい、ご回向。その後靖国神社へと移動し、本殿において神道形式によって参拝、境内の遊就館を見学。そして再度増上寺へと戻り、林田康順先生の講義の後、会員によるテーブルディスカッションが行われ、盛んな議論が交わされました。

近年、小泉前首相の参拝を契機として、靖国に関する議論が再び盛んになりつつあります。私自身も恥ずかしながら、報道等で伝えられる政治的側面のみでしか、その問題を認識していませんでした。今回の靖国参拝をきっかけに興味を持ち、関連する本をいくつか読みましたが、この問題が政治のみならず宗教的な問題も含め、非常に複雑なものであることを認識させられました。

また、浄土宗教師の立場から見た場合も、実は無関係でないのではないかと考えるようになりまして。自坊でも戦死者の方々のご供養をしております。この方々も、あの靖国神社に英霊として祀られているのです。今回、靖国神社の本殿に参拝した際、その奥に二百数十万におよぶ英霊が「柱」として祀られていると説明を受けました。私自身が不勉強なせいもあるかもしれませんが、阿弥陀さまのお浄土にいらっしゃるはずの浄土宗徒の方々が、なぜそこに祀られているのか、と素朴な疑問を持つようになったのです。

いずれの点も、その答えが容易にできるものではありません。しかし、今回法然塾に参加させていただき、こういった靖国の問題を、浄土宗教師として身近な問題として考えさせられる良い機会となりました。



第三回

去る平成十九年三月七、八日に、第三回法然塾が行われました。初日の法然塾は、「宗議会見学」ということで、京都にあります「浄土宗務庁」を訪ねました。遠方にも関わらず、総勢二十四名の参加がありました。

当日は、定期宗議会の会期中ということで、神奈川教区選出の里見嘉嗣上人が、副議長として議会を円滑に進行する様子や、同じく神奈川教区議員宮林雄彦上人が発言される姿を見ることが出来ました。議会終了後は、場所を宿泊先であります「ギオン福住」へ移動し、テーブルディスプレイを行い、会議場の雰囲気や議会中の様子など、印象に残ったことを述べ合いました。途中、里見・宮林両議員も加わり、宗議会に関する様々なレクチャーを頂き、第三回法然塾の初日は終了いたしました。

中郡組 吉田 健一



前日の「宗議会見学」に続き、「法然上人御遺跡めぐり―法然上人の息吹を求めて―」と題し、白毫寺蔵「応永頃（一三九四〜一四二八）ノ古図写」に基づき、法然上人がお住まいだった坊の六百年前の位置や境内拡張がなされる以前の知恩院の状況等を確認し、上人が踏みしめられた東山界隈を実地に散策することによって、上人の息吹を身近に感じ取ることが目指しました。

まず八坂神社【祇園社】（二内は前掲「古図写」記載）を参拝、その境内【祇園林】を抜け、円山公園内の法然上人旧坊【吉水西坊・吉水中坊・吉水東新坊】跡にて十念、【吉水】の由来となった「吉水井」を確認し、同時に大弁財天を参拝、続けて慈円中興になる【円山安養寺】堂内にて勤行、解説を伺いました。その後、二祖対面の地と伝えられる「法垂の窟」を参拝、「大谷」を通過し、捨世派本山【一心院】参拝、御廟修復中のため、法然上人の舍利が祀られている【知恩院】勢至堂内で勤行し、当時の境内地を確認しました。あわせて、濡神神社・歴代尻下墓所・家康公娘千姫墓等を参拝、御影堂前・阿弥陀堂前にて十念、三門下を通過し、【親鸞上人廟堂本願寺】跡に建つ崇泰院にて十念、黒門前瓜生石（知恩院七不思議）を確認し、【青蓮院】や【尊勝院】、粟田神社【粟田天王】等を参詣し、南禅寺を経て、永観堂へと向かいました。

山道もあり、ハードなコースでありましたが、脱落者もなく、全員が宗祖法然上人の息吹を感じ、報恩謝徳の志を強くした一時でありました。

京浜組 林田 康順



他宗団見学報告

中郡組 吉田 健一

去る平成十九年三月八日(木)、他宗団見学が行われ、総勢二十四名の会員で浄土宗西山禅林寺派総本山であります「永観堂 禅林寺」様を訪ね、お参りをさせて頂きました。

一行は、西山禅林寺派青年会の方に寺内を案内して頂くと共に、「みかえり阿弥陀」さまの尊前と御影堂にて別時念仏をお称えさせて頂きました。

永観堂禅林寺といえは、「みかえり阿弥陀」で有名な京都屈指の名刹ですが、現在は「みかえり阿弥陀」さまがいらつしやる「阿弥陀堂」が、「法然上人八百大遠忌」を控え改修の工事をしており、従来のかたちでの参拝は出来ませんでした。しかし、「瑞紫殿」に移された「みかえり阿弥陀」さまは、大変近しいところに安置をされており、そのお姿を間近で拝むことができました。

御忌別時會報告

鎌倉組 石井 康順

平成十九年一月二十四日(水) 大本山光明寺にて御忌別時會が行われました。

当日は神浄青の会員で、礼拝とお念仏を行いました。若い私は維那をつとめさせて頂き、緊張しましたがとても貴重な体験をさせて頂きました。

別時念仏は、一人ではなかなか出来ない事だと思います。しかし、会員のみんなで勤める事で、数多いお念仏も易行となりました。とても素晴らしいです！本当に素晴らしい時間なので、これからも機会があれば、みなさんと共に積極的に参加したいと思っております。



ブリラム落慶五周年事業を終えて

鎌倉組 西念寺 富田 浩雅 上人

去る二月十九日より海外仏教国小学生支援事業落慶五周年記念法要の為、タイ国ブリラム県マンノンホン村タムマター校に、三泊四日の日程で行ってまいりました。この海外仏教国小学生支援事業は、わたし達の先輩であります第十三代宮林雄彦神浄青会長の時に行われました。その時の感動から早五年、宮林会長を始め、何人かの浄青会員は毎年一回必ずブリラムへ出向きお土産の文房具・子ども服・小額の浄財を届けながら、校舎の利用状況を確認してまいりました。落慶五周年を迎えるに当たり、昨年春より実行委員会を浄青OB・浄青会員の有志で立ち上げ、この度の事業を楽しみに頑張ってきました。今回の参加には、浄青会員・浄青OB総勢二十四名の参加をいただき、全体の三分の一がブリラム初体験の方々でした。

今回の事業でブリラム側がどう歓迎してくれるのか、多くの方々には御参加いただいたにも拘らず、普段わたし達が訪れている時と同じだった寂しいと心配していたのですが、それは無用でした。バスを降りると鼓笛隊のお出迎え、そして大勢の生徒や地域の方々の大歓迎に、多くの参加者は驚きの表情を隠せませんでした。早速、参加者全員で五周年記念の法要を行い、学校で用意していたいた昼食をいただき(全行程の食事の中で一番美味いとの声もちらほら)、日本から持参した子ども服・ノート等の文房具の贈呈式・学校の生徒による民族舞踊のプレゼント、そして残りの時間は各々施設見学や子ども達との交流で、あっという間に時間が過ぎてしまいました。なんと片道七時間の強行軍でしたので、後ろ髪を惹かれる思いでしたが帰路に着きました。

学校の先生方や地域の方々も本当に喜んでいただけたのが印象的で、「ご協力していただいた日本の皆様にくれぐれも宜しくお伝え下さい」との事でした。また、宮林元会長が挨拶でおっしゃっていた、「同じ仏教徒としてお互いに頑張りましょう！微力ですがこれ



からもお手伝いさせて頂いた。」「という言葉、そしてその言葉を聞いた時のブリラムの生徒たちのキラキラと輝いた顔が目に残り、いつか忘れる事が出来ません。

最後になりましたが、この事業に参加していただいた、神浄青会長三荒弘道上人を始めとする執行部の方々、教化団長の野中上人そして浄青会員・浄青OBの諸大徳のご参加に対し御礼申し上げます。皆様と過ごした貴重な時間を心の引出しに大事にしまつて頑張っていこうと思っております。

関プロ浄青詠唱奉納大会報告

高座組 香川 陽祐

去る平成十九年四月四日、大本山増上寺に於いて「詠唱奉納大会」がおこなわれました。神浄青からは五名、関プロ浄青四十数名の参加でありました。

多くの檀信徒の皆様が日ごろの成果を奉納する中、関プロ浄青は例年通り「月影の御詠歌」を青年僧侶らしく、増上寺の大殿の隅々まで響き渡るほどの大きな声で奉納をしてまいりました。



「全浄大別時會」に参加して

高座組 藤本 剛史

平成十九年三月九日（金）大本山増上寺に於きまして、浄青会員と檀信徒の僧俗一体の「全浄大別時會」が行われました。

当日、本堂内は大勢の参加者で溢れ、行道の最後列であった私は内陣に上がれず外陣での法要となりました。

一龍齋貞花師匠の仏教講話は参加者の心を虜にし、師匠の法然上人への熱い思いが感じられました。又、各寺の檀信徒様から申込みのあった名号札を浄青会員が誰となく回向する姿には感動し、更なる会員同士の絆を深める事であるかと思われました。是非又仲間を誘って参加したいと思えます。



三大本山・関プロ浄青別時念仏會

高座組 香川 陽祐

去る平成十九年四月五日、大本山増上寺に於いて「三大本山・関プロ浄青別時念仏會」がおこなわれました。神浄青からは八名、関プロ浄青・檀信徒の皆様では総勢一二〇名の参加となりました。

増上寺の御忌の最中であり、わずかな時間でのお念仏ではありましたが、檀信徒の皆様・浄青の仲間と共にお念仏をおとなえすることができたことは、大変貴重な時間でありました。



第三十二回全国浄土宗青年会総合研修会参加報告

中郡組 相馬 正覚

平成十九年二月七日（水）～八日（木）広島教区西部組妙慶院及び平和記念公園資料館において、参加者一三五名（神奈川より八名）をもって行われた「第三十二回全国浄土宗青年会総合研修会」に参加致しました。研修会中、特に印象に残った講話として、広島に原爆が投下されたまさにその時、広島電鉄（広島市内を走るチンチン電車）の車掌をしていた、当時わずか十六才であった末盛愛子先生の被爆体験談です。あまりに凄惨な状況を伺い、多くの浄青会員が言葉を失っていました。今後に生かせる、実りある研修会でした。



平成十九年度総会報告

中郡組 吉田 健一

去る平成十九年四月十二日（木）、大本山光明寺にて、平成十九年度浄土宗神奈川教区青年会総会が開かれました。午後十二時三十分より、大殿にて三荒会長を導師とし、ご回願を行い、同一時より、石川副会長の宣言により総会を開会いたしました。

まず、第十八期三荒会長挨拶ののち、渡部相談役、続いて神奈川教区教区長平野仁司上人よりご挨拶を頂きました。三荒会長が議長に就任した後、定足数の確認が行われました。平成十九年度定期総会は、出席四十九名、委任六十一名、総会員数一三七名の過半数以上の定足数を得て、「平成十八年度事業報告承認の件」、「平成十八年度決算報告承認の件」、「平成十九年度事業計画承認の件」、「平成十九年度事業予算案承認の件」の議案を審議致しました。

審議終了後には、平成十八年度卒業会員卒業式並びに平成十九年度新入会員入会式が行われ、中郡組より池田敬道上人と石垣一彦上人がご出席をされ、卒業会員十名を代表してお言葉を述べられ、また、新入会員では、鎌倉組の佐藤稜隆上人、小田原組より小島朗江上人が出席され新入会員として抱負を語りました。

式終了後、各組の代表が本年度の事業紹介をし、最後に齊藤・曾我両監事の総括、続く平野副会長の閉会宣言にて平成十九年度の定期総会は終了いたしました。



卒業会員紹介

お疲れ様でした



港北組 源東院
吉水 清文

私は17年程、電子端末の画像制御とデザインの開発をしております。今後、CPUの高速化に伴い設定そのものに振る舞い情報を与える事が可能な時代を迎えますがその一方、法然上人の教えには時代の変化を超越した凄みを感じます。私もそれを見習い精進してまいりたいと思います。



高座組 真源寺
瀬高 順教

教区内外の先輩・後輩と活動できたことが私の宝物です。そして思い出は、年号が変わろうとする時に開かれた15周年記念式典です。今しか出来ないことを一つでも多く経験して下さい。20年間で難うございました



高座組 善然寺
戸田 由美

研修や高座組での帰敬会のお手伝いなど、私にとって大変充実したものでございました。まだまだ共に勉強させて頂きたい気持ちでいっぱいです。短い期間でしたが、浄青で活動させて頂いた事をとても感謝しています。



三浦組 法蔵院
余郷 有聡

とうとう卒業します。私のような行いの者でも無事43歳を迎えさせてもらえる浄土の教えはとてありがたいものです。みなさんも残り期間遠慮せずにハジけて、浄青生活楽しんでください。



三浦組 福泉寺
松原 尚樹

平成元年に縁あって得度して以来、18年間お世話になりました浄青会をこの春、卒業するにあたり一言！「沢山のご縁」を頂き、ありがとうございました。そして何年か後、入会するであろう息子を宜しく願います！



中郡組 海宝寺
池田 敬道

浄青に入りましてからの25年間を振り返りますと、その活動を通して得られた多くの経験が、今日の自分自身の礎となっていると実感することが出来ます。そのような日々を皆様と過ごせた事を感謝申し上げます。



中郡組 大運寺
石垣 一彦

良きご縁を頂戴して皆様に導かれ貴重な経験が出来ましたこと感謝致します。どれも皆、宝物です。人は人の中で育まれるものなので、最後に青年会の益々の発展と皆様の一層のご活躍を祈念して挨拶とします。



小田原組 心光寺
柴田 幸博

神浄青の思い出を100文字以内で語るのは困難です。各研修会・親睦会など、皆様と共に研鑽和合できたことは私にとって大きな糧と成りました。そして、この20年間最大の収穫は身に付いた20kg超の脂肪です。



小田原組 城源寺
古林 俊晃

“自己研鑽中”にも卒業の恩恵、ただただ恐縮&感謝。大学でヒトの脳神経の研究をしています、『生命』という分野で宗教との接点があると思います。浄青諸師のご活躍を祈念しております。

中郡組 無量寺 山崎 弘道

新入会員紹介

宜しくお願います



港南組 光長寺
後藤 佳孝

- ①和食
- ②黒木メイサ
- ③ドライブ、ツーリング



高座組 善教寺
中西 謙司

- ①ラーメン、フルーツ全般
- ②ザ・ロック、サザン
- ③スキューバ、山登り、販売



鎌倉組 浄林寺
佐藤 稷隆

- ①特になし
- ②特になし
- ③特になし



小田原組 無量寺
小島 朗江

- ①チゲ鍋、油揚げの焼いたの、スイカ
- ②藤木直人、橋之介、勘三郎、玉木宏
- ③お菓子作り

- ①好きな食べ物
- ②好きな芸能人のタイプ
- ③趣味

『書』について その2「筆法」

昨年の「文房四宝」に続き、その2として今回は「筆法」についてご説明致します。

書の文字には主に「篆書・隸書・楷書・行書・草書・仮名」などがあります。日頃私達が法務で書を書く際「白木位牌・塔婆・掲示物」等があると思います。その際、大半の人が見て理解できる書でなければならぬと思っております。そこで今回は「一点一画」が丁寧で、見る側にも判り易い楷書についての筆法を解説させていただきます。

文字を書く際、気になる点は書き始めの筆の入り方起筆、線の途中の送筆（折れ・曲がり・反り）、線の終わりの収筆（止め・はね）だと思います。これから左記の図に於きまして一例ではありますが、ご説明致します。

【起筆】図（1）横画の筆の入り方。楷書の筆の入り方の基本は、斜め約四十五度を目安にして戴き筆をそのまま水平に動かします。

【送筆】図（2）折れ。折れの部分で一旦やや筆を上げ、再度筆を入れる様な気持ちでしっかり止めてから筆を運びます。

図（3）曲がり。やや左上から斜めに筆を入れ、少し丸みを帯びるように線を書きます。

図（4）反り。起筆部分はしっかり止まり、やや反らす様にして線を書き、払う際にもしっかり止めてはらいます。*起筆部分でしっかり止めないで書きますと、下に行くほど線が太くなりますのでご注意ください。

【収筆】図（5）止め。筆を水平に動かしてきたら、そのままの状態で止めます。

図（6）はね。線をはねる際、上に向ってはねたくなりますが、線を垂直に運んできましたら、一旦止まり、筆をそのまま横に水平に（ややゆっくりめ）はねます。

以上、簡単ではございますが筆の運びにつ

いてご説明させて頂きました。

書を書く際、誰もが上手く書きたいと思う気持ちで一杯だと思えますが、なかなか上手くないのが書だと思えます。自分自身の字を書く時、どうしても線の長短や太さ細さといったバランスがとれないと思います。私自身、常に心がけていることは、書は「古典（古筆）」に習うこと。例えば楷書であれば、中国は唐の時代（六三二年）《九成宮醜泉名・歐陽詢》、（六五三年）《雁塔聖教序・褚遂良》といった名蹟をお手本として練習をしています。著名な書家の先生も皆、古典に学び、その学んだ中からご自身の個性を出し、作品にされているから、品格、美しさ、そして感動までもさせて頂けるのだと思います。

仏教も伝統文化を大切にしているのと同様

図（1）（6）



編集後記

皆様、今回の「浄青神奈川」はいかがでしたでしょうか？
前号に引き続き、内容盛り沢山、読み応え十分と自負しております。
早いもので、「浄青神奈川」は第三十四号を迎えました。編集委員会として積み上げて参りました歴史を踏まえ、熟考の上、編集作業を進めて参りました。お読み頂く皆様、ご寄稿頂いた皆様のご期待に応える事が出来るよう、また当紙が対外機関紙として価値あるものになる様、編集委員一同、更なる努力をして参ります。次号をお楽しみに！

編集委員会一同

筆 大場得法

に、書も何千年もの歴史を経由して今に引き継がれ守られているのだと思えます。書は直ぐに上手くなるものではありませんが、日々書くことの積み重ねが、少しずつ上達をしていく秘訣であると思えます。
歴史ある書、正しい字・品格ある書を今後古典から学び、精進してまいりたいと改めて感じる事が出来ました。
以上、「書について」と題しまして、二回に亘り執筆をさせて頂きました。内容に際しましては不十分な点も多いと思えますが未熟な為、その点はご了承下さい。

平成19年度 浄土宗神奈川教区青年会 事業計画

月	日	内 容	場 所
4月	4日(水)	関プロ浄青御忌詠唱奉納大会	大本山増上寺
	5日(木)	第2回関東三大本山別時念仏会	大本山増上寺
	12日(木)	定期総会 神浄青入会式・卒業式 第1回理事会	大本山光明寺
5月	9日(水)	第2回理事会	大本山光明寺
	21日(月)	第4回法然塾	小田原 少年院
6月		機関紙『浄青神奈川』第34号発行	
	7日(木)~8日(金)	関プロ第35回 総会 研修会	栃木教区(宇都宮県武蔵野公園及び栃木県総合文化センター)
7月	4日(水)	大本山光明寺開山忌前清掃奉仕 第3回理事会	大本山光明寺
	29日(日)~31日(火)	第60回夏期僧堂手伝い(関東地方教化センター・神奈川教区)	大本山光明寺
8月	30日(木)予定	浄土宗青年会 第3回全国大会	愛媛県松山市(予定)
9月	1日(土)	神浄青ホームページ開設	
		第4回理事会 第5回法然塾	大本山光明寺
10月	9日(火)	大本山光明寺十夜前清掃奉仕 第5回理事会	大本山光明寺
	14日(日)	十夜托鉢 十夜法要手伝い	大本山光明寺
	24日(水)	関プロ浄青スポーツ交流大会(千葉教区)	未定
11月	17日(土)	神浄青大別時念仏会・第6回法然塾	大本山光明寺
	26日(月)	神奈川教区長杯争奪ソフトボール大会	担当 港北組
12月	12日(水)	第6回理事会 臨時総会 忘年会	未定
1月	24日(木)	御忌別時會 第7回理事会	大本山光明寺
2月		第7回法然塾	未定
		インド仏跡巡り(他宗団見学)	インド
3月		第8回理事会	大本山光明寺
		家族親睦会	未定
	末日	神浄青HOW TO BOOK 発行予定	

神浄青大別時念仏会

選択(せんたく)の責務

～選択(せんちやく)を担って～

期日 **11月17日(土)**

会場 大本山光明寺

